



Title	ご挨拶
Author(s)	釜洞, 醇太郎
Citation	癌と人. 1975, 3, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/24245">https://hdl.handle.net/11094/24245</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## ご 挨 拶

理事長 釜 洞 醇 太 郎\*

時下、皆様には益々ご清祥のことと存じあげます。

平素は大阪癌研究会、対ガン運動に対しまして格段のご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。

癌の問題はいまや一大社会問題であり、ますます国民的関心事となつてまいりました。とくに働きざかりで一家のまた社会の柱となっている30才～60才代では癌で逝くなられる人が一番多いというのですから重大であります。

われわれ日本人で、もっとも罹患しやすい胃癌は依然として全癌の半数近くも占め、一向に減る傾向を示していません。子宮癌の死亡率は漸く減る傾向でありますが、一方、肺癌、膵臓癌、乳癌など著しく増加してまいりました。どうして胃癌は減らないのでしょうか。肺癌などどうして増えてきているのでしょうか。

癌の研究はゆっくりとした歩みではありますが着実に進展してきていると思われまふ。しかし、癌の問題は医学全体を包含するような複雑多岐にわたる難問をかかえています。それ以上に生物学的、社会学的問題にも及んでいるようです。したがって、まだまだ癌の本態を解明するところまで至つて居りません。そのために癌の治療、予防といった面で決定的方法を打ちたてられていないのです。

けれども、癌の分子生物学、癌の免疫といった新しい研究領域が着々と成果をあげつつありますし、癌も決して不治の病ではなく、立派に治っている人も随分と多くなつています。

今後、癌の研究はますます各方面より、より深く追究されなければなりませんので、当研究会としましては、癌の研究を奨励助成し、その徹底的解明と撲滅をはかるよう努力いたしたいと存じます。

従来通り、乳癌、胃癌の集団検診の拡大徹底をはかると共に、今年度は直腸・結腸癌の集団検診を開始する予定であります。一般の方々への癌啓蒙運動としての講演・映画の会なども一層拡大してゆくつもりであります。

この大阪癌研究会のため何時もご援助をたまわっている会員各位に対しまして、もっと親しく講演会など催して、身近にお役に立ちたいとも考えて居ります。

どうか、今後とも従来通りご後援、ご援助を賜りますようお願い申し上げます。

---

\* 前大阪大学総長